

平成31年度川崎市消費生活モニター第1回意見交換会報告

日時 令和元年7月31日(水) 13時30分から16時00分まで
会場 川崎市産業振興会館12階 経済労働局会議室 出席者 15人
次第 1 開 会

2 あいさつ

3 講演及びワークショップ

テーマ 「私たちのくらしはすべて世界につながっている

～商品の一生を知ろう～

講師 公益社団法人 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会

代表理事・副会長：大石 美奈子さん(ミニ講座講師)

理事・環境委員長：村上 千里さん(ファシリテーター)

4 閉 会

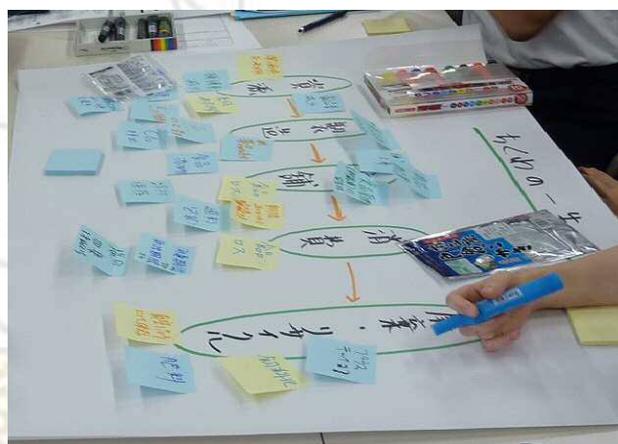
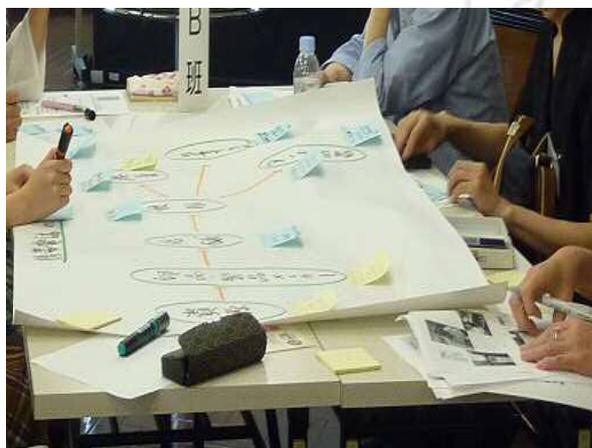
《 講義概要 》

- 主催者からのあいさつの後、公益社団法人 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会(NACS)の大石さんと村上さんを講師にお迎えして、意見交換会が始まりました。
- ファシリテーターから「ワークショップ」の心得について簡単に説明(参加する人が、主体的に、遊び心を持って、学び合う場)。
- 参加者が3つのグループに分かれて、各々の自己紹介や簡単な意見交換(実際に自分が使ってみて良かったお薦めのエコ商品などの紹介)による「アイスブレイク(*注)」を行いました。
(*注)「アイスブレイク」とは、参加者の緊張をほぐし、話しやすい雰囲気をつくり、参加者同士が知り合うきっかけ作りのために行う簡単な作業のこと。

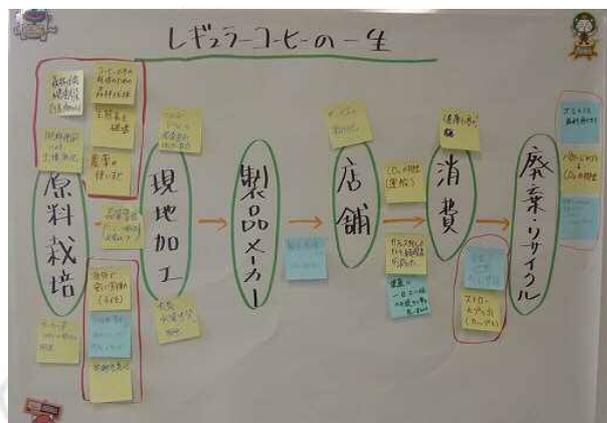


- アイスブレイクの時間には、自己紹介に絡めて、自分のおすすめのエコ商品等も紹介しました。今回はA、B、Cの3グループでしたが、自分の身近な経験に基づくお話は詰替式の化粧品や充電式の電池の使用といった話から、お風呂の水の再利用、移動は自転車や公共交通機関にしているという話まで出ていました。
事務局も各班を回りながら興味深くお話を聞かせていただきました。

- その後、①レギュラーコーヒー②携帯電話③ちくわの3品目について、各グループで意見交換を行いました。
- 資源～商品の廃棄にいたる商品の一生について、環境に負荷をかけていないか、生産者の健康や暮らしは守られているかといった視点から検討し、皆さん、自分の気が付いたことについてどんどん付箋を貼りだします。



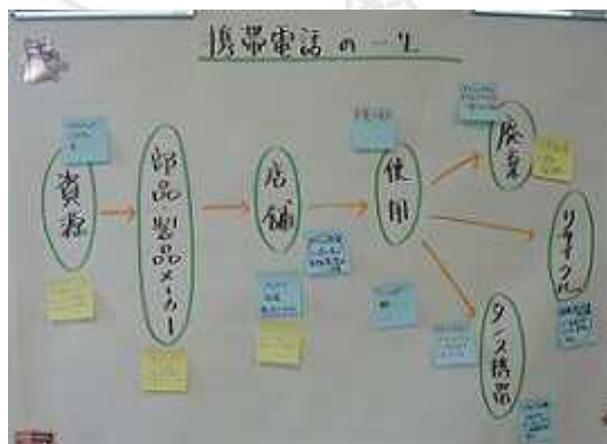
- そして、各グループ意見交換を行い、環境や生産者に負担をかけていると思われることを2つずつ選びます。最後に各グループの代表者が意見を発表し、全体で、グループごとに話し合われた商品の一生についての理解を深めます。



Aグループ
「レギュラーコーヒーの一生」

Bグループ
「携帯電話の一生」

Cグループ
「ちくわの一生」





意見交換した内容を各班に発表していただきました。

- 発表後、「わたしたちの暮らしはすべて世界につながっている」というテーマで、講師から「持続可能な暮らし」、「商品の一生」などについて講義をしていただきました。
 コーヒーには自然や環境に配慮しているラベル(フェアトレード、有機 JAS マークなど)が貼られていること、消費者ができる賢明な商品の選択・購入やものを長く使い大事にすることなどについてお話いただきました。



〈コーヒーについている認証マークのいろいろ〉



〈フェアトレード〉



〈レインフォレストアライアンス〉



〈グッドインサイド〉



〈バードフレンドリー〉



〈有機 JAS〉

※有機 JAS マークは有機農産物を材料とした食品に、フェアトレードマークは食品に限らず、衣料品などにも使われています。

《参考》
 認証マークの付いた商品



<まとめ>

1. 自分のくらしが、環境に負荷をかけていることを知ろう
2. ものの変化はするが、消滅はしないことを見極めよう
3. ものの来し方、行く末を想像する力をもとう
4. わからなければ調べよう、聞いてみよう
5. そしてグリーンコンシューマー、さらにエシカルコンシューマーになろう！

●講座後、各自「ふりかえりシート」を使って、今日の意見交換会で感じたことなどを振り返りながら記入の上、感想を発表していただきました。皆さんの感想から抜粋して掲載させていただきます。

- ・便利で豊富な時代に暮らしている私たちは、多少不便になると思われるが、衣・食・住の原点に戻った生活をしなければならない。
- ・今は生活が豊かになり楽に生活できているが、その反面、考えていかなければならない問題点もたくさんある。もっと積極的に学習することも大切だと思った。
- ・日々何気なく使用しているものができるまでに、時間がかかり人手も費やしていることがわかった。今まで以上に、ものを大切にしたいと思った。
- ・今まで知らなかった「認証マーク」が色々あり、これからはよく見てから買い物をしたいと思った。
- ・今のまま、何も考えないで生活していると環境が大変なことになってしまうことに気付いた。考えるだけでも違うと思う。
- ・商品には様々なマークがついていて、原材料の情報やリサイクルの情報を知ることができることに気が付いた。日々の買い物でも、環境に配慮した商品を選ぶようにしたい。
- ・毎日何気なく飲んでいるコーヒーであるが、その一生を考えると、本当に色々な問題点があることに気付いた。

《 全体から 》

今回は、「ワークショップ」の手法により、活発な意見交換が行われました。モニターの皆さんには、講義を受けた後に「コーヒー」や「携帯電話」、「ちくわ」といった身近な商品を題材にして、原材料はどこでどのように採取されているのか、その後誰がどのようにして生産しているのか、その過程の中でどのような問題が生じているのか、また環境にはどのような影響が及んでいるのかなど話し合っていました。新たな知識の習得や今後、物を購入する際に考えるべきヒントを得たモニターの方も多かったのではないのでしょうか。

講師からも、コーヒーについている認証マークやフェアトレードなどの話も交えて、日常の中で考えるべきヒントについて講義いただきました。

モニターの皆様には、日常生活の中でできる身近なことからよりよい消費者をめざしていただきたいと思います。

